

思い出の宝庫「日本唱歌集」

十四回生 三分一克美

手許に一冊の岩波文庫「日本唱歌集」があります。表紙を開くと墨痕鮮やかに

千里第二小学校 第十四回生 東京雪月会

一九九一年六月十三日 日本橋 大條

と書かれた三笠洋一君の筆の跡が目に入ります。思い出せばこの日は、柿崎眞吾君の呼び掛けで在京の同級生が何年かぶりに会って食事をした日でした。当時は丁度マレーシアの駐在を終えて帰国したばかりでした。集まりには釜石から三笠君、奈良から阿部弘君が遠路はるばる参加、還暦を終えたばかりの八名で、賑やかなひとときを過ごしました。

宴もたけなわの頃、全員がこの唱歌集が渡され、各自の思い出の歌のところに一冊づつ署名しては隣りに回し、一回転したときは全冊に八名の署名が終わっていました。

なにをガヤガヤワイワイ話したかは憶えてませんが、それぞれの歌を皆で唄和したことだけはいつまでも憶えていて、今もページをめくると歌とともにあのときの情景が浮かんできます。(下段は現姓)

阿部弘 一寸法師

柿崎眞吾 夏は来ぬ

三分一克美 われは海の子

平松幸子 冬景色

三笠洋一 牧場の朝

宮中市子 竹内 故郷を離るる歌

村山武子 奥田夫沙子 冬の夜

山崎郁子 岡本 浜辺の歌

時が経っても、耳を澄ませば先生のオルガンに合せて歌った当時の少女少女の面影と重なり、歌っていた旧友の顔が思い出せてひとときの幸せを感じます。その後の東京雪月会で二人の署名が加まりました。

宇野 博 春が来た

廣瀬淳美 廣瀬中佐

翌々年の一九九三年五月三十日、舞子ピラでの泊まりがけ卒業五十周年記念雪月会にもこのイベントをエ

スカレットさせました。全員がこの唱歌集を今も手許に置いておくことでしよう。この時は唱歌集で五十周年記念の署名会になり、歌と顔をセットで思い出せる旧友がこんなに増えました。洩れはお赦しください。

安倍謙一

岡村吉純

小上昊子

龜高一徳

木谷彰良

北野恵美子

阪本恵美子

坂脇好子

嶋 恵美子

諏佐和子

高瀬陽二

滝内春雄

辻口頼弘

西脇利一

疋田千之助

廣口綾子

福井光金

鈴木

青葉茂れる櫻井の

箱根八里

あおげば尊し

旅愁

植生の宿

雪

野なかの薔薇

戦友

紅葉

戦友

桃太郎

元寇

花

故郷

コイノボリ

青葉茂れる櫻井の

植生の宿

コイノボリ

箱根八里

あおげば尊し

旅愁

植生の宿

雪

野なかの薔薇

戦友

紅葉

戦友

桃太郎

元寇

花

故郷

青葉茂れる櫻井の

不破長雄

村端恵美子

矢口里子

山崎マリ子

吉田静雄

美見昭光

武蔵彰

綿貫

早春賦

故郷の廃家

籬月夜

青葉の笛

鯉のぼり

村の鍛冶屋

故郷の廃家

籬月夜

近頃はお先に彼岸入りした友の署名を見ながら歌うと、二人で一緒に歌っているような気になります。終